

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について



国東市教育委員会
学校教育課

RO6全国学力・学習状況調査結果

正答率(%)

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
国東市	73	69	60	56
全国	67.7	63.4	58.1	52.5
大分県	69	63	58	50
全国との差	+5.3	+5.6	+1.9	+3.5
大分県との差	+4	+6	+2	+6

 は全国平均を上回った教科

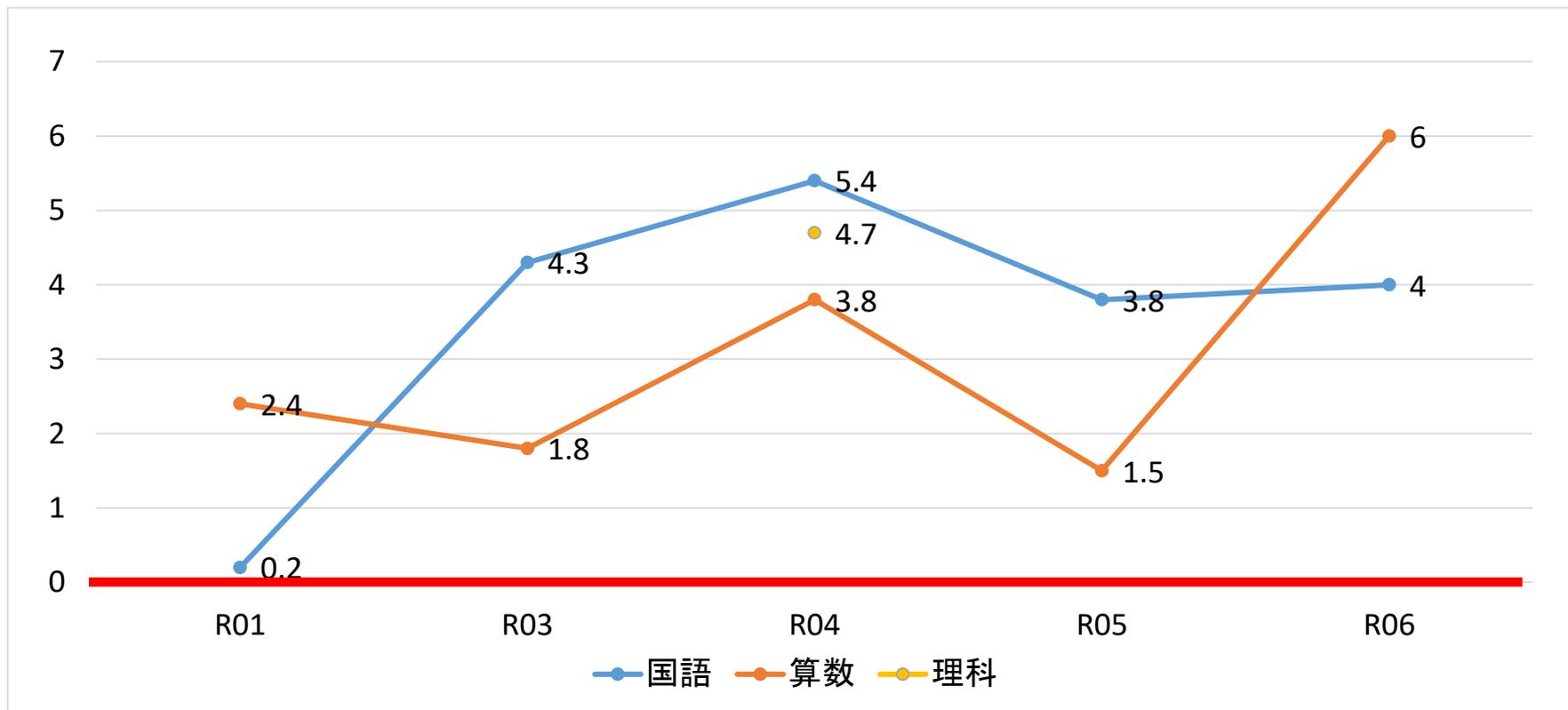
RO5全国学力・学習状況調査結果

正答率(%)

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
国東市	71	64	69	52	38
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
大分県	69	64	69	49	41
全国との差	+3.8	+1.5	-0.8	+1.0	-7.6
大分県との差	+2.0	0	0	+3.0	-3.0

 は全国平均を上回った教科

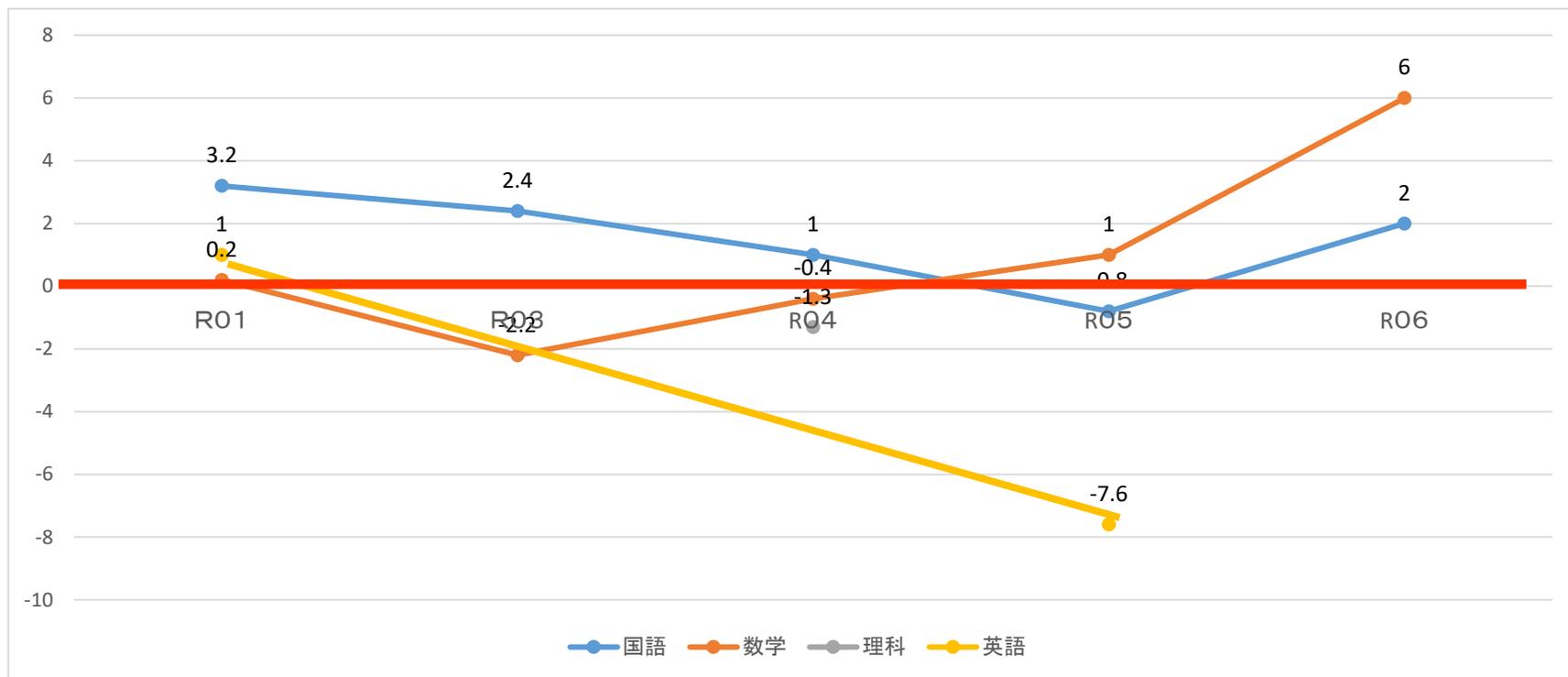
全国学力・学習状況調査：国東市と全国との正答率の差の推移（小学校）



(ポイント)

	R01	R03	R04	R05	R06
国語	0.2	4.3	5.4	3.8	4
算数	2.4	1.8	3.8	1.5	6
理科			4.7		

全国学力・学習状況調査：国東市と全国との正答率の差の推移（中学校）



(ポイント)

	R01	R03	R04	R05	R06
国語	3.2	2.4	1	-0.8	2
数学	0.2	-2.2	-0.4	1	6
理科			-1.3		
英語	1			-7.6	

正答率の度数分布から（正答率が3割以下の児童・生徒の割合）

(%)

小学校	国東市	大分県	全国
国語	4	6	8
算数	9	15	15

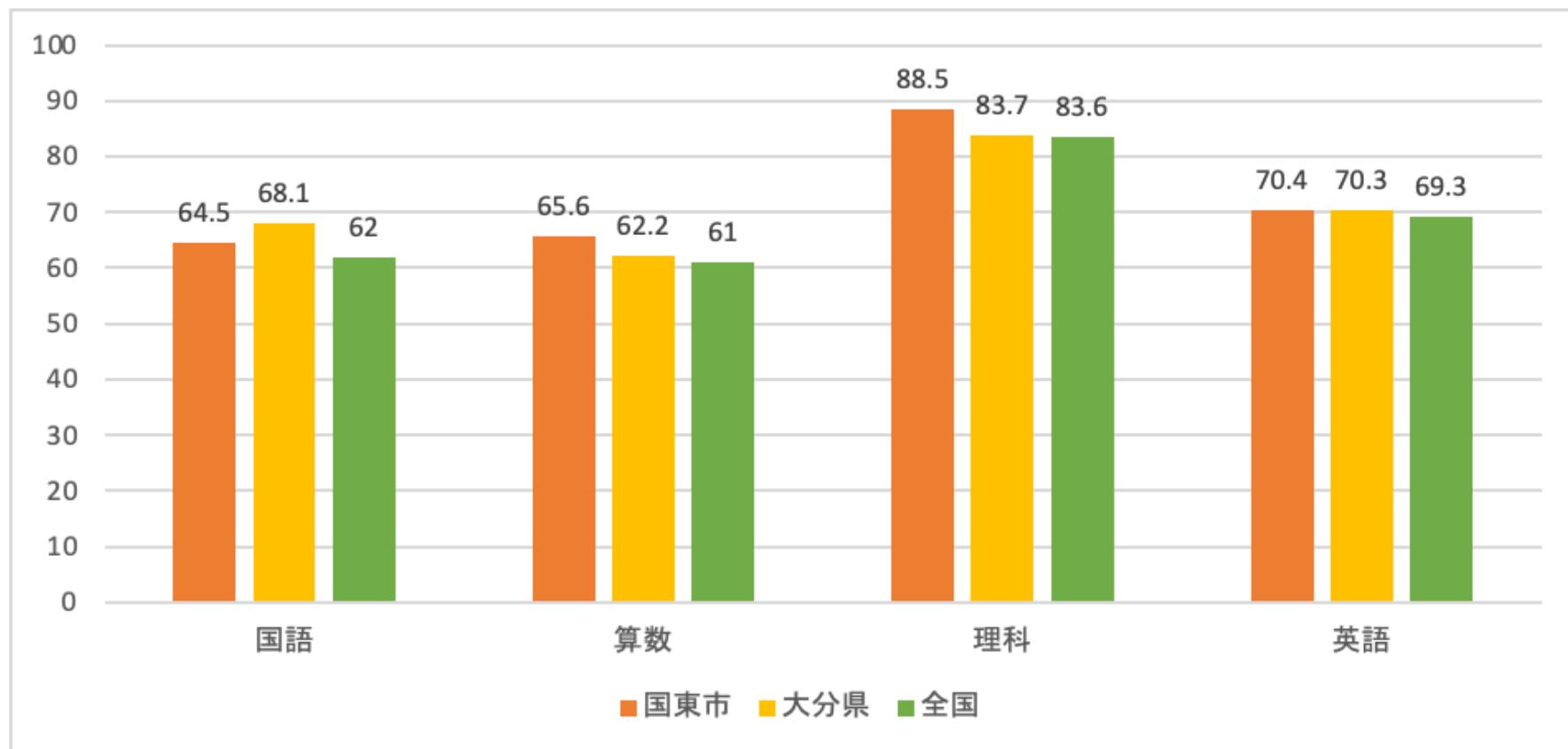
(%)

中学校	国東市	大分県	全国
国語	15	19	19
数学	23	30	28

R06 全国学力・学習状況調査（小学校児童質問調査より）

教科等の勉強が好きですか？ に対して
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合

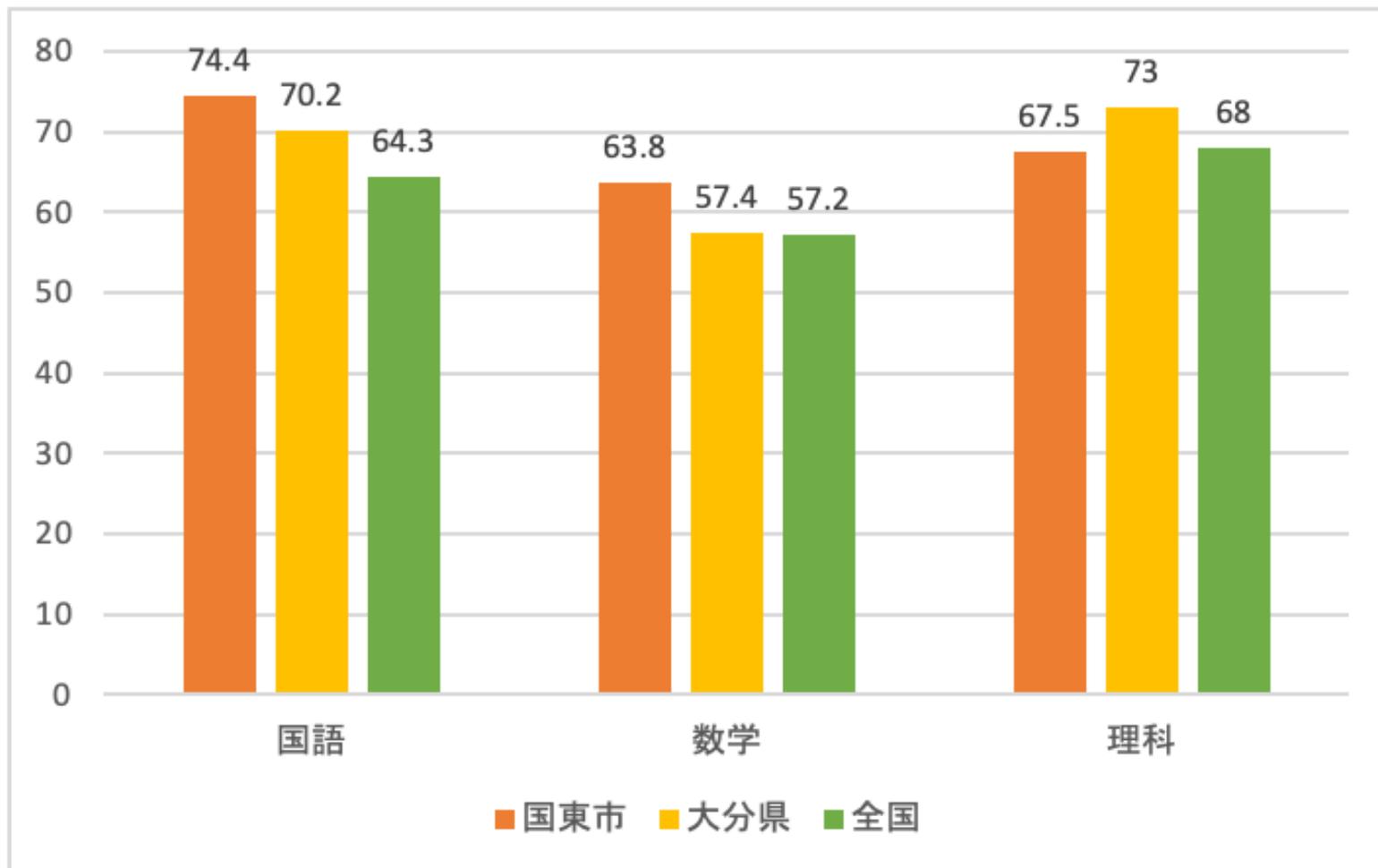
(%)



R06 全国学力・学習状況調査（中学校生徒質問調査より）

教科等の勉強が好きですか？ に対して
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合

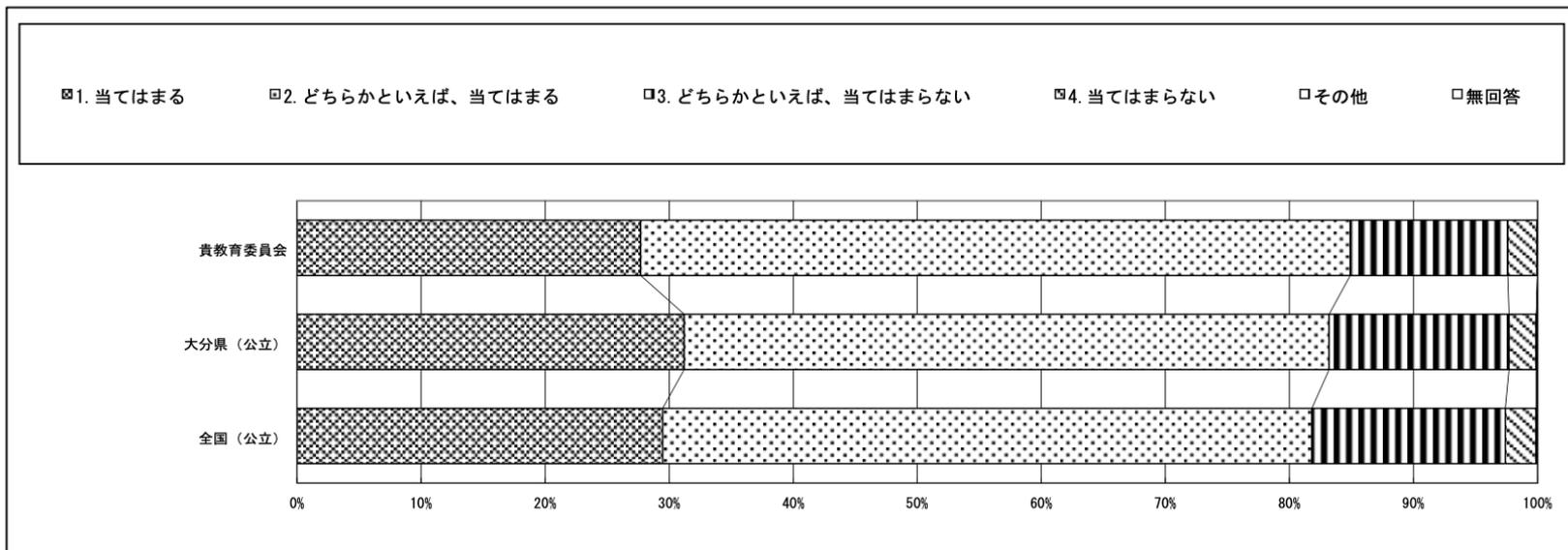
(%)



R06全国学力・学習状況調査（小学校児童質問調査結果から）

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	27.7	57.2	12.7	2.4							0.0	0.0
大分県（公立）	31.2	52.0	14.5	2.2							0.0	0.1
全国（公立）	29.5	52.4	15.6	2.5							0.0	0.1



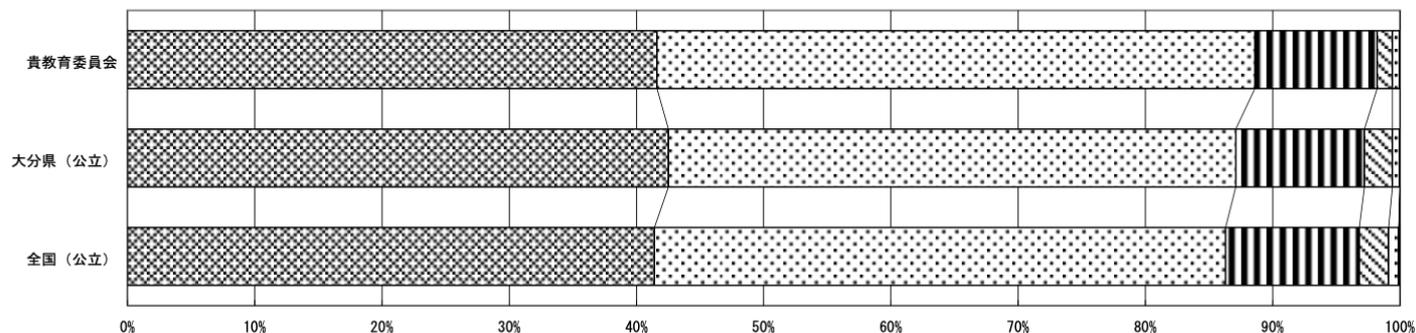
選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	算数(16問)
1	当てはまる	46	28.6	78.3	74.7
2	どちらかといえば、当てはまる	91	56.5	71.7	66.6
3	どちらかといえば、当てはまらない	21	13.0	68.6	68.5
4	当てはまらない	3	1.9	47.6	33.3

R06全国学力・学習状況調査（小学校児童質問紙調査結果から）

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	41.6	47.0	9.6	1.2	0.6						0.0	0.0
大分県（公立）	42.5	44.6	10.1	2.2	0.6						0.0	0.0
全国（公立）	41.4	44.9	10.5	2.3	0.8						0.0	0.1

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない ■その他 □無回答

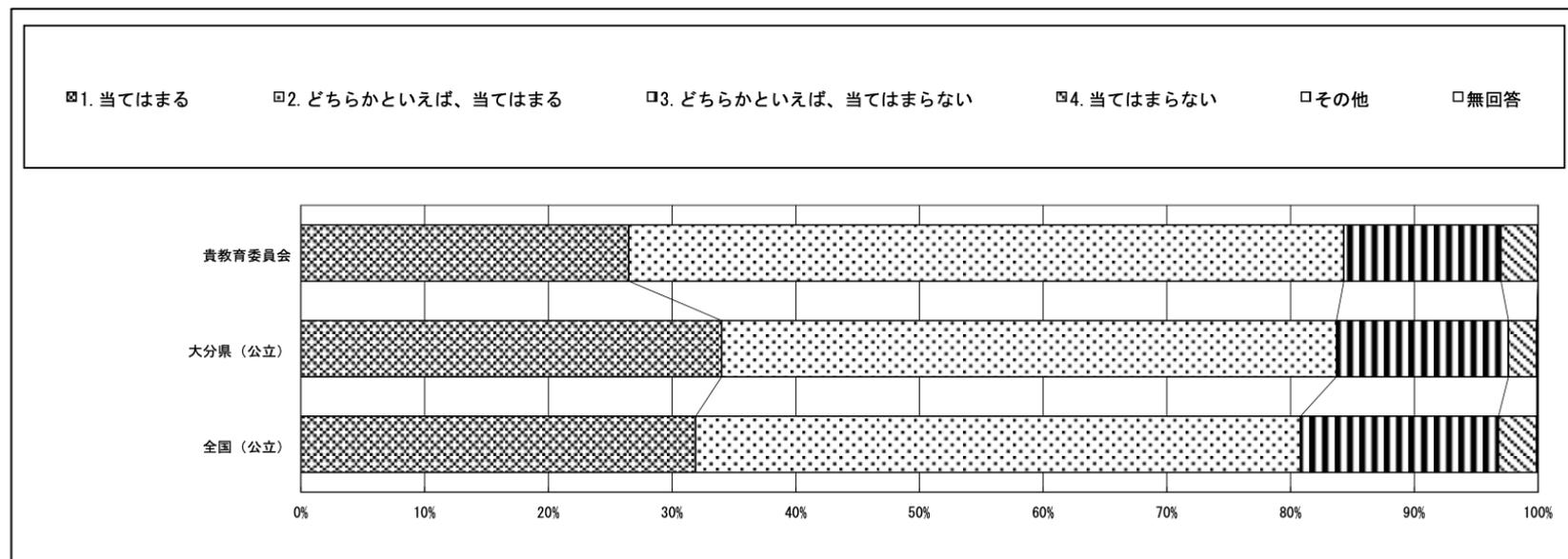


選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	算数(16問)
1	当てはまる	67	41.6	74.8	71.3
2	どちらかといえば、当てはまる	76	47.2	72.9	67.4
3	どちらかといえば、当てはまらない	16	9.9	65.2	65.6
4	当てはまらない	2	1.2	53.6	46.9

R06全国学力・学習状況調査（小学校児童質問調査結果から）

学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	26.5	57.8	12.7	3.0							0.0	0.0
大分県（公立）	34.0	49.7	13.9	2.3							0.0	0.1
全国（公立）	31.9	48.9	16.0	3.1							0.0	0.1

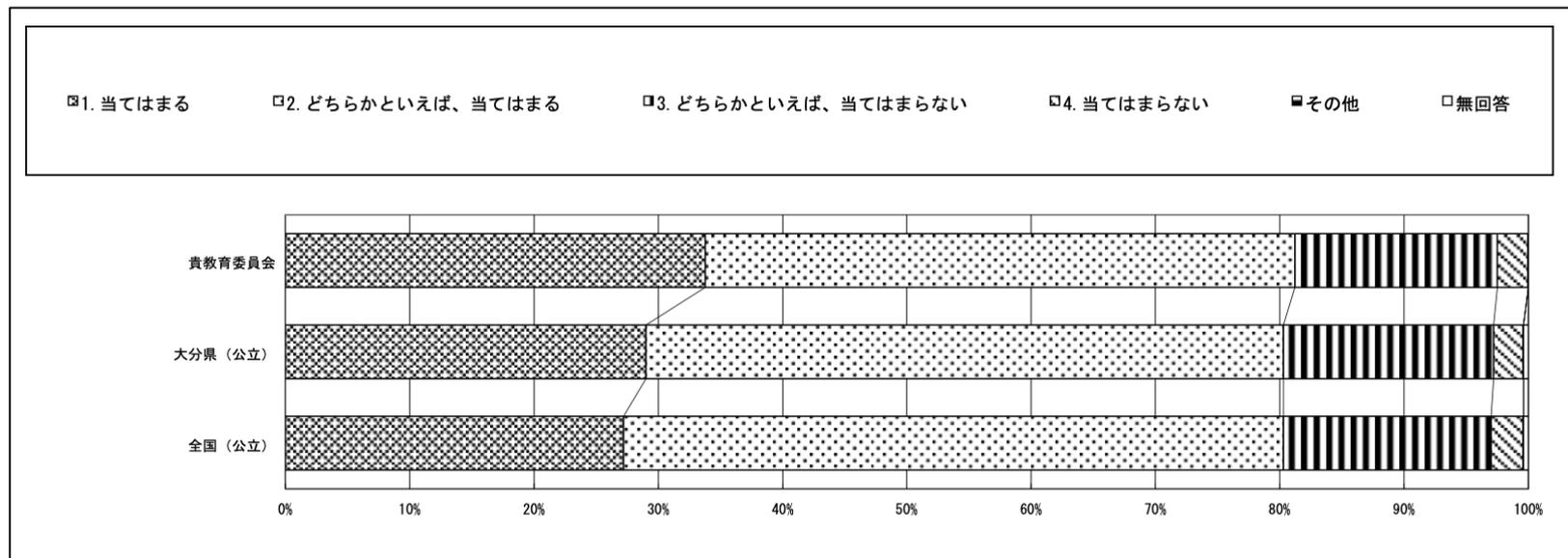


選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	当てはまる	43	26.7	75.1	71.8
2	どちらかといえば、当てはまる	93	57.8	73.1	67.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	21	13.0	70.7	70.2
4	当てはまらない	4	2.5	51.8	50.0

R06全国学力・学習状況調査（中学校生徒質問調査結果から）

1・2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	33.8	47.5	16.3	2.5							0.0	0.0
大分県（公立）	29.0	51.3	16.9	2.4							0.0	0.4
全国（公立）	27.2	53.1	16.7	2.6							0.0	0.4



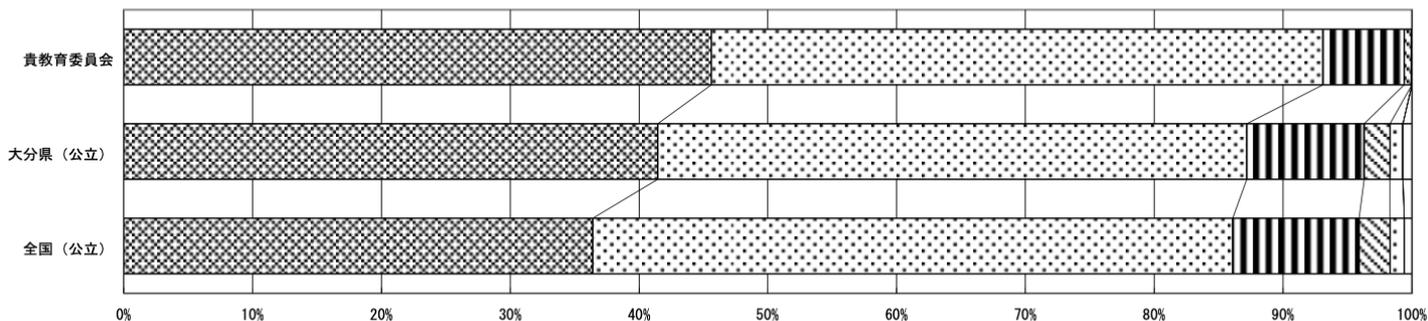
選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語 (15問)	数学 (16問)
1	当てはまる	54	34.0	63.2	62.2
2	どちらかといえば、当てはまる	76	47.8	63.2	57.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	25	15.7	46.1	40.5
4	当てはまらない	4	2.5	53.3	48.4

R06全国学力・学習状況調査（中学校生徒質問調査結果から）

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	45.6	47.5	6.3	0.6	0.0						0.0	0.0
大分県（公立）	41.4	45.7	9.1	2.0	1.0						0.0	0.7
全国（公立）	36.4	49.7	9.8	2.4	1.1						0.0	0.6

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □5. 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない ■ その他 □ 無回答

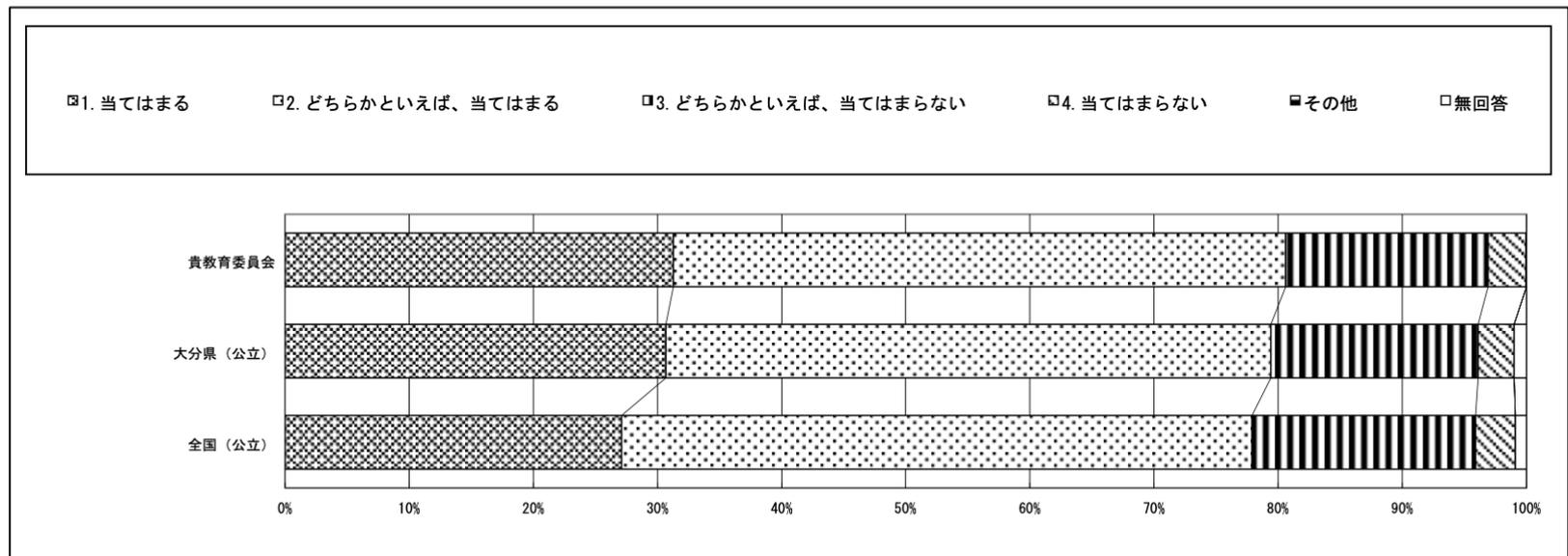


選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語 (15問)	数学 (16問)
1	当てはまる	73	45.9	62.3	61.6
2	どちらかといえば、当てはまる	76	47.8	60.6	52.8
3	どちらかといえば、当てはまらない	9	5.7	39.3	40.3
4	当てはまらない	1	0.6	80.0	62.5

R06全国学力・学習状況調査（中学校生徒質問調査結果から）

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	31.3	49.4	16.3	3.1							0.0	0.0
大分県（公立）	30.7	48.8	16.7	2.9							0.0	1.0
全国（公立）	27.1	50.8	18.0	3.2							0.0	0.9



選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(15問)	数学(16問)
1	当てはまる	50	31.4	64.1	65.0
2	どちらかといえば、当てはまる	79	49.7	60.6	55.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	25	15.7	53.6	44.8
4	当てはまらない	5	3.1	50.7	35.0

R06全国学力・学習状況調査（小学校学校質問調査結果から）

番号	質問事項	国東市	大分県	全国
25	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100	94.3	88.2
26	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	87.5	85.4	78.3
27	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	100	92.7	87.2
28	調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	100	95.9	93.7
29	調査対象学年の児童は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	62.5	67.9	61.4

R06全国学力・学習状況調査（中学校学校質問調査結果から）

番号	質問事項	国東市	大分県	全国
25	調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	75	93.1	88.4
26	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	75	86.4	82.7
27	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	100	92.3	89.7
28	調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	100	97.4	96.1
29	調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	25	58.9	55.3

全国学力・学習状況調査の結果から

①各教科の偏差値・正答率の状況

- ・小学校、中学校ともにすべての教科で全国・県の平均正答率を上回っている。
- ・昨年度と比較しても、全ての教科で正答率が向上している。

- ・組織的な授業改善の成果が表れている。
- ・小学校から中学校への連携を充実を引き続き充実させていく。中学校の状況を小学校からのつながりで見っていく。

②正答率3割未満の児童・生徒の割合

小・中学校のすべての教科で県の割合よりも低く抑えられている。

- ・全員参加の授業の実現が図られている。
- ・授業改善の重点Point 5「評価規準に達しない(達しそうにない)児童生徒に対する個別の指導・支援」の実践の成果

③各教科の愛好度

- ・小学校はすべての教科で全国値を上回っている。
- ・中学校では、国語・数学が県・全国値を上回っている。
- ・「わかる・できるから楽しい授業」を目指す。
- ・Point B(子どもの思いや考えが、聞こえる・見える振り返り)により、「わかった・できた」といった学びの手応えを自覚的なものとしていく。

④自ら学ぶ

- ・「自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか」という項目について、肯定的な回答の割合は全国・県共に下回っている。
- ・国東市授業改善の重点Point A「児童生徒の解決意欲を促す課題の設定」へ向け、教師が課題を示すのではなく、子どもの思考の流れに沿って、課題を生み出していくことを重視する。
- ・総合的な学習の時間などにおいては、探究課題を子どもたち自身が情報を収集したり話し合ったりする中で創り上げ、学習計画をたてて課題解決を図っていく展開を目指す。

⑤めあて・課題・まとめ・振り返り

・児童・生徒質問調査の結果については小学校、中学校共に肯定率が県・全国
の値を上回っている。

・学校質問調査の結果と児童生徒質問調査の結果に大きな差は見られず、児
童生徒自身の振り返りと、学校による子どもの見取りに整合性がある。

・課題や振り返りの設問に対する肯定的な回答をしている子どもの各教科の正
答率は高い傾向にある。

→授業改善の重点Point A「児童生徒の解決意欲を促す課題の設定(課題提示
後の丁寧な見取り)」により、課題を全員が引き受けることができているか丁寧
に見取っていく。

・子どもの姿を丁寧に見取り、そこから研究や授業改善をスタートする取組を今
後も継続する。

令和6年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

- 平均正答率は、全国平均と県平均を上回った。

	国東市	大分県	全国
平均正答率	73.0	69.0	67.7

<観点別正答率>

観点	国東市	大分県	全国
知識・技能	75.7	71.2	69.8
思考・判断・表現	70.5	68.0	66.0

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに平均正答率は全国平均と県平均を上回った。

<領域別正答率>

領域	国東市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	63.8	60.6	59.8
書くこと	75.0	70.4	68.4
読むこと	74.4	73.8	70.7

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」とともに正答率が全国平均と県平均を上回った。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 読むこと〔3〕二(1)

- 出題のねらい：登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。
- 問題の概要：「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する。
- 正答率：国東市 63.1%・大分県 67.3%・全国 66.9%
- 学習指導にあたって
 - 登場人物の相互関係や心情などを捉えるためには、描写に着目しながら読み進めていくことが重要である。登場人物の心情は直接的に描写されている場合もあるが、暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら読むことが大切である。
 - 系統的に指導していくことが重要である。低学年においては、挿絵を手掛かりにして読んだり、役割を決めて演じたりすることなどを通して、内容の大体を捉えることが考えられる。中学年においては、場面と場面のつながりを意識したり、登場人物の気持ちの変化に着目したりすることなどを通して、複数の叙述を基に登場人物の行動や気持ちなどについてとらえることが考えられる。高学年においては、登場人物の行動や会話などについて、登場人物相互の関係と結び付けながら想像したり、場面の様子や登場人物の心情の関係に着目したりすることなどを通して、描写を基に登場人物の相互関係や心情などについて捉えることが考えられる。

(2) 話すこと・聞くこと〔1〕二(2)

- 出題のねらい：資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。
- 問題の概要：オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。
- 正答率：国東市 54.4%・大分県 53.5%・全国 52.9%

□学習指導にあたって

- ・相手や目的を意識しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫するように指導することが重要である。音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定することが大切である。その際、目的や意図に応じて資料の順番を変えたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方について検討したりする時間を設けると効果的である。
- ・実際に交流する場面では、聞き手のうなずきや表情などの反応にも目を向け、適切な時間や機会を判断し表現することのよさに気付かせていくことが大切である。

3 指導の改善のポイント

(1) 国語科の授業づくりの流れに沿って単元を構想する。

- ①単元で取り上げる指導事項を明確にする。
- ②資質・能力の育成に適した言語活動を設定する。
- ③資質・能力の定着を確認する適切な評価規準を設定する。
- ④単元の指導と評価の計画を立てる。
- ⑤支援を要する児童に対する手立ての工夫を考える。

①単元で取り上げる指導事項を明確にする

つけたい力を明確にするためには学習指導要領解説の「内容」に書かれていることを確認するとよい。学習指導要領に示された内容は一つの指導事項に複数の指導する内容が含まれているため、それぞれの単元で指導しなかった内容については該当学年の別の単元でもれなく指導する必要がある。その際、マトリクス型年間指導計画を活用するとよい。

②資質・能力の育成に適した言語活動を設定する。

国語科における言語活動とは「話すこと・聞くこと」や「書くこと」「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着させるため、言葉によって理解し思考し表現するという過程を経る活動である。言語活動は手立てであり大事なものは「資質・能力」の育成である。指導事項（目標）と言語活動（手立て）を往還させ、つけたい力に最適な言語活動の設定をすることが大切である。身につける言葉の力を想定して指導者がやってみる（モデルを作成してみる）ことで子どもの実態にあっていないかを確認したり子どものつまづきを想定したりすることも大切である。

③資質・能力の定着を確認する適切な評価規準を設定する。

単元の評価規準を設定した後、実際の学習活動を踏まえて各時間の「概ね満足できる状況」（Bの児童の姿）を具体的に想定しておく。

④単元の指導と評価の計画を立てる。

各時間の具体的な学習活動及び単元のどの段階でどのような評価基準に基づいて評価するのかを明らかにする。

⑤支援を要する児童に対する手立ての工夫を考える。

質問調査「国語の授業の内容はよく分かりますか」を見ると「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童が9%いる。一人ひとりの困りを想定して、支援方法を考えることが大切である。

(2) 系統的な指導を意識する。

これまでに身につけてきた資質・能力を把握した上で、単元で育成を目指す資質・能力を明確にすることが大切である。つまり、前学年の（または前単元の）指導内容を受けて何を新たに身につけさせるのかを明確にして指導することが大切である。

(3) 学習用語を確実に理解させる。

必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。そのために、小学校で使用する教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切である。既習の用語は授業で使わせ、指導者が曖昧な言葉を使わないようにしなければならない。

4 教科を越えて取り組むべきこと

(1) 漢字や語句、文法、表現技法等の習得

漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。また、国語科以外の教科の時間に既習の漢字を使用するように指導することも大切である。

(2) 読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして活字に親しむことが必要である。特に、SNSを使うことで自分に適した情報が短い言葉で出てくる経験をしている児童が増えていることが考えられることから、学校司書等と連携しバランスのよい読書指導をすることが重要である。
- ・学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を活用することも求められる。質問調査からは新聞を読む頻度が少ない実態が明らかになっている。学校図書館にある新聞の活用を積極的に行ったり、新聞を児童の見えるところに掲示し、自然と情報が入ってくる環境を作ったりしていきたい。

(3) 全国学力・学習状況調査についての研修や情報共有

全国調査の結果分析を各学校の指導の充実に活かすために、学校全体で情報を共有し、授業改善のベクトルを揃えることが重要である。

◆参考資料：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

未来を創る学力向上支援事業に係る未来を創る授業力向上協議会資料（R5・R6年度）

国東市：全国学力・学習状況調査結果分析（小学校：算数）

1. 結果のポイント

- ・正答率は69%で、全国の63.4%を5.6ポイント、県の63%を6ポイント上回っている。
- ・領域別では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」全ての領域で全国・県の正答率を上回っている。特に「数と計算」では、+8.2ポイントと全国の正答率を大きく上回っている。
- ・観点別では、「知識・技能」で+6.4ポイント、「思考・判断・表現」で+3.5ポイント、全国の正答率を上回っている。

2. 課題が見られた問題と指導の改善事項

（※全国の正答率を下回っていたもの・正答率が低かったもの）

(1) 変化と関係 4 (2) 3分間で180m歩くことを基に1800mを歩くのにかかる時間を書く。

たけるさんは、3分間で180m歩きました。同じ速さで歩き続けると、1800m歩くのに何分間かかりますか。
答えを書きましょう。

① 出題のねらいと内容

速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる。

② 解答状況

- ・正答 30 正答率 65.8%（全国 70.0%）
- ・誤答 「10」と解答している児童 12.4%（全国 10.0%）
「60」「600」と解答している児童 8.0%（全国 7.5%）
無回答 3.1%（全国 3.3%）

③ 指導の改善事項

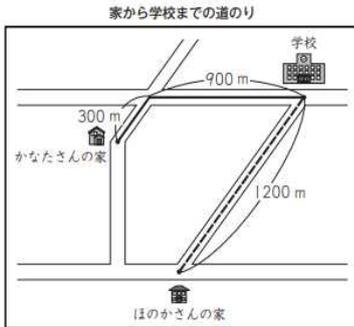
速さが一定である場合について、道のりと時間の関係について考察できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、3分間で180m歩くのと同じ速さで歩き続けると1800m歩くのに何分間かかるかを考え、説明する活動が考えられる。その際、1800mが180mの10倍であり、速さが一定であることから、道のりが10倍になればそれに伴って歩くのにかかる時間も10倍になることを用いたり、1分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係を用いたりすることができるようになることが大切である。

また、360m・540m・720m、…などの道のりについて歩くのにかかる時間を考えるを通して、道のりが2倍、3倍、4倍、…となり、道のりと時間が比例の関係にあることに気付くことができるようにすることも大切である。

(2) 変化と関係 4 (3) 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

その番号を選んだわけを言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

① 出題のねらいと内容

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

② 解答状況

・正答 番号1を選び AまたはBいずれかで理由を書いている

A かなたさんとほのかさんが歩いた道のりが等しいことを表す言葉や数とかなたさんがかかった時間がほのかさんがかかった時間よりも短いことを表す言葉や数を書いている。

B かなたさんの歩く速さを表す数や式、言葉とほのかさんの歩く速さを表す数や式、言葉を書いている。

正答率 36.0% (全国 31.0%)

・誤答……1を選択しているが、理由にかなたさんとほのかさんの歩いた道のりが等しいことだけを記述している。33.5% (全国 30.8%)

無回答 1.2% (全国 2.4%)

③ 指導の改善事項

場面や目的に応じて、単位時間に当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにすることが重要である。

本問は、家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の歩く速さについて比べる問題である。道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを問うている。かなたさんとほのかさんのどちらが速いかを判断するために、かなたさんとほのかさんが歩いた道のりと、かかった時間に着目し、道のりが等しい場合には時間が短いほど速さが速いことを説明したり、それぞれの速さを求めたりする活動が大切である。

かなたさんの方が速い理由を記述する上で、二つの事柄を書く必要があったが、どちらか一方の理由しか書けていなかったことから、不足なく説明できる力をつけていく必要がある。

【参考・引用】 令和6年度

全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省・国立教育政策研究所)

令和6年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 結果のポイント

・全体結果

対象生徒数	平均正答率 (%)
国東市 (162人)	60
大分県 (公立 8,336人)	58
全国 (公立 875,574人)	58.1

・分類別結果

分類		区分	平均正答率 (%)		
			国東市	大分県	全国
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	58.0	58.8	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	61.7	57.8	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.6	80.3	75.6
	思考力・判断力・表現力等	A 話すこと・聞くこと	63.6	58.3	58.8
		B 書くこと	64.5	63.4	65.3
		C 読むこと	51.9	47.5	47.9
評価の観点		知識・技能	62.9	62.1	62.0
		思考・判断・表現	58.6	54.6	55.4
		主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式		選択式	62.8	60.5	61.0
		短答式	63.4	61.9	61.8
		記述式	49.8	44.6	45.5

- ・平均正答率での全国平均との比較では、差が+2.0ポイントで全国平均を上回った。
- ・内容別の全国平均との差は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で-1.2ポイント、「情報の扱い方に関する事項」で+2.1ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」で+4.0ポイント、「話すこと・聞くこと」で+4.8ポイント、「書くこと」で-0.8ポイント、「読むこと」で+4.0ポイントであった。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

1 話し合いをする（「フィルターバブル現象」）

設問二

①趣旨

資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第2学年〕思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。《表現、共有（話すこと）》

②解答類型と反応率

1 二	生徒数の割合	
	国東市	全国
問題の概要		
話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む		
◎ 1 〈図〉の破線囲みの内側の部分を囲んでいるもの	66.7	68.5
2 上記以外の解答	30.9	28.0
3 無解答	2.5	3.5

◎は正解

◆分析と課題

○解答類型2の反応率は30.9%である。このように解答した生徒は、資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことに課題がある。

③学習指導に当たって

資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す

聞き手に自分の考えを伝える際には、分かりやすく伝わるように資料を用いるなどして表現を工夫することが重要である。資料や機器を用いるのは、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に分かりやすく伝えるためである。このことを踏まえて、資料や機器を適切に用いることができるよう指導することが大切である。

例えば、話したり話し合ったりする際に、目的や状況、相手に応じて、必要な資料や機器を検討する学習活動が考えられる。話し手の考えを正確に伝え、聞き手の理解をより深めるには、どのような資料や機器が必要なのか、また、それらをどのように用いれば効果的かなど、具体的な状況を想定して検討することが重要である。また、実際に用いた資料や機器が効果的であったかについて、聞き手と共に振り返ることも有効である。指導に当たっては、話し言葉の特徴や、視覚に訴えることの効果などを踏まえて考えることができるように、第2学年〔知識及び技能〕の(1)「イ話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。」などとの関連を図ることが考えられる。

3 物語を創作する（「紙の辞書」）

設問1

①趣旨

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。《題材の設定、情報の収集、内容の検討》

②解答類型と反応率

3 一	生徒数の割合	
	国東市	全国
問題の概要		
物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものと して適切なものを選択する		
1 と解答しているもの	4.9	4.9
2 と解答しているもの	13.0	9.9
◎3 と解答しているもの	79.0	81.4
4 と解答しているもの	2.5	2.9
5 上記以外の解答	0.0	0.2
6 無解答	0.6	0.7

◎は正解

◆分析と課題

○解答類型1、2、4の反応率の合計は20.4%である。このように解答した生徒は、目的や意図に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題がある。〈物語を通して伝えたいこと〉が「紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。」であることを捉えることができていないものと考えられる。

解答類型2の生徒は、【ノートの一部】の〈もとにする体験〉に書いた情報の中から、「最近
はオンライン辞書ばかり使っている。」と「紙の辞書を久しぶりに使った。」を取り上げるこ
とで、「紙の辞書よりもオンラインの辞書の方がよいこと」をより明確に伝えようとしてい
ると判断したものと考えられる。

③学習指導に当たって

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする

物語を創作する際には、目的や意図に応じて題材を決め、伝えたいことを考えながら、書くための材料を集める必要がある。その上で、伝えたいことが明確になるように、材料を比較しながら取捨選択したり、関係付けをしてまとめたりするなど、集めた材料を整理することが大切である。

例えば、物語を書くために集めた材料を、構想を練りながら整理する学習活動が考えられる。物語を通して伝えたいことや、登場人物や状況の設定など、物語を書くために考えなければならないことを出し合い、それらを観点として集めた材料を整理するなど、自分がこれから書こうとする物語の構想を具体化できるように指導することが効果的である。その際、必要に応じて、交流しながら、材料を整理する観点を増やしたり、足りない情報を集めたりできるようにするなど、個々の生徒が自分に合った学習の進め方ができるようにすることが大切である。

4 短歌を紹介する（「月と風景」）

設問一

①趣旨

表現の技法について理解しているかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第1学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。《表現の技法》

②解答類型と反応率

4 一	問題の概要	生徒数の割合	
		国東市	全国
	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する		
1	と解答しているもの	11.7	7.6
2	と解答しているもの	21.6	20.5
3	と解答しているもの	13.6	15.1
◎4	と解答しているもの	51.2	54.9
5	上記以外の解答	0.0	0.1
6	無解答	1.9	1.8

◎は正解

◆分析と課題

○これまでの調査で、平成24、26、27年度、R4年度の設問において、「表現の技法について理解すること」に課題が見られた。これに関連して、本問でも、同様の趣旨で出題したところ、正答率は51.2%であった。今回の結果から、表現の技法の理解について、引き続き課題があると考えられる。

○解答類型1～3の反応率の合計は46.9%である。このように解答した生徒は、表現の技法について理解することに課題がある。「体言止め」が文末を名詞（体言）で終わらせる表現の技法であることを理解していないか、「夕暮れ」が名詞（体言）であることを理解していないものと考えられる。

加えて、解答類型1の生徒は、「擬人法」が、人でないものを人に見立てて表現する技法であることを十分に理解していないものと考えられる。また、Bの短歌の「風さやか」の意味を適切に捉えることができず、風を人に見立てた表現と捉えたものとも考えられる。解答類型2の生徒は、「直喩」が「ように」、「みたいに」などを用いて、比喩であることを明らかに示してたとえる表現の技法であることを十分に理解していないものと考えられる。解答類型3の生徒は、「倒置法」が主語、述語などの語順を通常と逆にして表現する技法であることを十分に理解していないものと考えられる。

③学習指導に当たって

具体的な表現と結び付けながら、表現の技法について理解する

文学的な文章を味わうには、用いられている語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。特に、短歌や俳句などは、限られた音

数の中で情景や心情を伝えるために表現が工夫されている。それを踏まえ、描写の仕方や表現の技法などに着目することができるように指導することが大切である。

例えば、表現が工夫されている詩歌を取り上げ、紹介し合う活動の中で、表現の技法について学習したことを想起し、理解を深める活動を設定することが考えられる。その際、「擬人法」、「比喩」、「倒置」、「体言止め」などが、どのような特徴をもつ表現の技法なのかを名称と結び付けて確認し、その知識を学習活動の中で使えるように指導することが大切である。また、同じ表現の技法が使われている作品を比較して、効果の共通点や相違点を検討するなど、具体的な表現と結び付けながら個々の表現の技法について理解を深めることが効果的である。

学習指導に当たっては、平成26年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1に係る授業アイデア例「表現の技法を用いて、読書についての標語を作る～表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる～」も参考になる。

(参照) 「平成26年度【中学校】授業アイデア例」 pp. 9-10

https://www.nier.go.jp/jugyourei/h26/data/mlang_03.pdf

国東市：全国学力・学習状況調査結果分析（中学校：数学）

1. 結果のポイント

- ・正答率は56%で、全国の52.5%を3.5ポイント、県の50%を6ポイント上回っている。
- ・領域別では、「数と式」「関数」「データの活用」の領域で全国・県の正答率を上回っている。「図形」においては県を上回ったものの、全国の値については下回った。
- ・観点別では、「知識・技能」で+3.7ポイント、「思考・判断・表現」で+3.4ポイント、全国の正答率を上回っている。

2. 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 数と式 6 (3) 正四面体の各頂点に○を、各辺に□を描いた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する。

① 出題のねらいと内容

統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかを確認

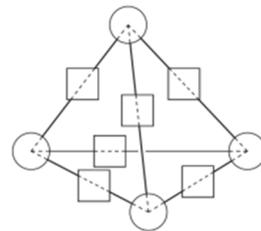
② 正答の条件

「●●は、■■になる」という形で、次の(a)(b)について記述しているもの
 (a) ●●が「□に入る整数の和」である。
 (b) ■■が「○に入れた整数の和の3倍」である。

(3) 優真さんは、正三角形を正四面体に変えても、各頂点の○に入れた整数の和と各辺の□に入る整数の和の間には何か関係があるのではないかと思います。正四面体の図をかいて考えてみることにしました。次の図5は、正四面体の図の各頂点に○を、各辺に□をかいたものです。



図5



このとき、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について、どのようなことが予想できますか。前ページの予想のように、「～は、……になる。」という形で書きなさい。

③ 解答状況

□正答率 38.9% (全国 41.8%)

□誤答例

・「○に入れた整数の和」と「□に入る整数の和」について、「●●は、■■になる。」という形で、成り立たない事柄について記述している(13.0%)

・「●●は、■■になる。」という形で、「○に入れた整数の和」または「□に入る整数の和」について記述しているが、「○に入れた整数の和」と「□に入る整数の和」の関係について記述していないもの。

□無解答率 24.1%

④ 指導の改善事項

○ 問題の条件を変えて考え、成り立つ事柄を見だし数学的に表現できるようにする
 問題の条件を変えて見いだした事柄について、数学的に表現できるように指導することが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、正三角形の場合において「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の2倍になる」ことを考察した過程や結果を基にして、正三角形を正四面体に変えた場合に成り立つ事柄を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、結論に含まれる「2倍」がどのように変わるかを、具体的な整数で計算して予想する活動や、文字を用いて明らかにする場面を設定することが考えられる。その上で、見いだした事柄を「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の3倍になる」のように「●●は、■■になる。」という形で表現できるように指導することが大切である。

- (2) 図形 9 (1) 点 C を線分 AB 上にとり、線分 AB について同じ側に正三角形 PAC と QCB をつくる時、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。

9 線分 AB があります。線分 AB 上に点 C をとり、AC、CB をそれぞれ 1 辺とする正三角形 PAC、QCB を、線分 AB について同じ側につくります。そして、点 A と点 Q、点 B と点 P を結びます。ただし、点 C は点 A、B と重ならないものとします。
 桃子さんは次の図 1 のように点 C をとり、健太さんは次の図 2 のように線分 AB の中点に点 C をとりました。

図 1

図 2

二人は図 1 と図 2 を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点 C を動かしながら調べました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点 C が線分 AB 上のどこにあっても、 $AQ=PB$ になると予想しました。
 桃子さんの予想した $AQ=PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \cong \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ=PB$ になることの証明を完成しなさい。

証明

△QAC と △BPC において、

合同な図形の対応する辺は等しいから、
 $AQ=PB$

① 出題のねらいと内容

筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。

② 正答の条件

次の(a)(b)(c)(d)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。

(a) $AC=PC$
 (b) $CQ=CB$
 (c) $\angle ACQ=\angle PCB$
 (d) $\triangle QAC \cong \triangle BPC$

③ 解答状況

□ 正答率 20.4% (全国 25.8%)

□ 誤答例

・仮定として、 $AQ=PB$ を用いているもの (15.4% 全国 9.3%)

・上記(a)~(d)のうちの一部のみを記述しているもの(15.4% 全国 13.4%)

□無解答率 30.2%(全国 33.6%)

④ 指導の改善事項

○ 証明の方針を立て、それに基づいて証明できるようにする

事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、二つの線分が等しいことを証明するための方針を立て、それに基づいて証明する活動を取り入れることが考えられる。具体的には、 $AQ=PB$ を導くために $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を示せばよいことを明らかにし、 $\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において対応する辺や角の大きさについて分かることを整理したり、合同を示すために必要な関係を見いだしたりする場面を設定することが考えられる。その際、 $AQ=PB$ は結論であり、三角形の合同条件の根拠として用いることはできないことを確認することが大切である。また、 $\angle PCQ$ や正三角形の一つの内角の大きさが 60° であることに着目して、 $\angle ACQ = \angle PCB$ を見いだすことができるように指導することも大切である。

(3) 図形 9 (2) 点 C を線分 AB 上にとり、線分 AB について同じ側に正三角形 PAC と QCB をつくる時、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ。

(2) 健太さんは、線分 AB の中点に点 C をとった場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ が等しく見えたことから、他の場合にはどうなるか気になりました。

そこで、次の図 3 のように、線分 AB の中点を M として、点 A から点 B の方向へ点 C を動かした場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさがどうなるかを調べ、下のようまとめました。

図 3

調べたこと

- 点 C が点 A から点 B に近づくにつれて、 $\angle AQC$ は大きくなり、 $\angle BPC$ は小さくなる。
- 点 C が線分 AB の中点のとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ は等しく、どちらも 30° である。

健太さんは、前ページの調べたことから、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について何かいえることがないか考えています。

このとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について、次のことがいえます。

- 点 C が点 A と中点 M の間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ①。
- 点 C が中点 M と点 B の間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ②。

上の ①、② のそれぞれに当てはまるものを、下のアからエまでの中から 1 つずつ選びなさい。

- ア 60° より大きい
- イ 60° より小さい
- ウ 60° になる
- エ 60° より大きいことも小さいこともある

① 出題のねらいと内容

事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる

② 解答状況

□正答率 23.5%(全国 26.7%)

□誤答例

・①をイ、②をウとしているもの(11.1% 全国 7.9%)

・①をイ、②をエとしているもの(11.1% 全国 6.8%)

□無解答率 3.7%(全国 4.1%)

③ 指導の改善事項

- 事象を図形に着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるようにする

条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を見いだすことができるように指導することが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、問題で与えられた最初の条件を保ったまま動かした図形を観察し、既に証明した事柄を振り返り、新たな性質を見いだす活動を取り入れることが考えられる。

例えば、点Cの位置によって $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさがどのように変化するかを考察する場面を設定することが考えられる。その際、点Cが中点Mにあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ は等しく、どちらも 30° であることから、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 60° になることを確認することが考えられる。その上で、点Cが点Aと点Bの間を動いた場合、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和がどのように変化するかを観察し、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を証明したことを振り返り、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 60° で一定であることを見いだすことができるようにすることが大切である。

【参考・引用】 令和6年度全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省・国立教育政策研究所)